
日本エドワード・サピア協会執筆要項

1. 投稿原稿は Windows/Macintosh 互換タイプのソフトウェア (Word 等) で作成し、原稿のファイルを提出する。ファイルは電子メールに添付して協会の編集委員会専用アドレスに送信する。なお、ファイルが特殊フォントや複雑な図表などを含み、文字化け等の可能性がある場合には、その旨を編集委員会に連絡し、指示を仰ぐものとする。
2. 原稿の種類と分量
 - 2.1 投稿可能な原稿の形態には「研究論文」「書評論文」「研究ノート」「書評・紹介」などが含まれる。いずれも「A4 用紙、横書き、38 字×35 行、余白 (上) 3.5cm、その他の余白 3cm」の設定で作成する。フォントの種類は MS 明朝、Times New Roman、サイズは 10.5 を基本とする。
 - 2.2 「研究論文」および「書評論文」は、原則として、注と引用文献一覧を含めて 10 ページ以内に収める。
 - 2.3 「研究ノート」は、原則として、注と引用文献一覧を含めて 6 ページ以内に収める。
 - 2.4 サピアに関連する研究については、上記の形態以外に、短信、エッセイ、書誌情報など、多様な形態の投稿を認める。それぞれの分量については編集委員会の判断で柔軟に対応する。
3. 使用言語および書式は原則として下記の要領に従う。
 - 3.1 原稿は日本語が英語で執筆する。
 - 3.2 執筆言語が日本語の場合、表題・氏名・所属は日本語と英語の両方で表記する。
 - 3.3 執筆言語が英語の場合、すべて英語のみで表記する。
 - 3.4 「研究論文」「書評論文」は、和文、英文を問わず、冒頭に英文要旨 (500 words ないしは 20 行程度) を付す。「研究ノート」その他については、英文要旨は任意とする。
4. 最終原稿について
 - 4.1 編集委員会による審査の後、掲載が決定した場合には、最終原稿のファイルを編集委員会に送信する。
 - 4.2 図表等は、そのまま版下として使うことがあるため、十分に鮮明なものを用意する。
 - 4.3 執筆者校正は初校のみ認める。
5. 書式の詳細
 - 5.1 欧文の書籍、雑誌のタイトルはイタリック体で記す。例 *Linguistic inquiry*
 - 5.2 注は論文の終わりにまとめる。論文の中では¹⁾のように右肩に上付き文字で参照を指示する。この指示は読点 (コンマ)、句点 (ピリオド) の後に置く。
例 ……で指摘し、¹⁰⁾ ……で指摘した。²¹⁾
 - 5.3 参考文献の記載は本文中で言及したものに限る。書式は以下の記載例に従う。
亀井 孝 1970 「圏外の精神フーゴ・シュハート」『言語研究』57: 1-21
サピア、エドワード 1998 『言語 ことばの研究序説』安藤貞雄 (訳) 岩波書店
橋本萬太郎 1981 『現代博言学 言語研究の最前線』大修館書店
服部四郎 1960 「ソスユールのラングと言語過程説」『言語学の方法』: 166-218 岩波書店
Chomsky, Noam and Morris Halle. 1968. *The sound pattern of English*. New York: Harper and Row Publishers.
Reinhart, Tanya. 1976. *The syntactic domain of anaphora*. Unpublished doctoral dissertation, MIT, Cambridge, Massachusetts.
Sapir, Edward. 1921. *Language: An introduction to the study of speech*. New York: Harcourt, Brace and Company.
———. 1925. Sound patterns in language. *Language* 1: 37-51.
Wierzbicka, Anna. 1967. On the semantics of the verbal aspect in Polish. *To honor Roman Jakobson: Essays on the occasion of his seventieth birthday III*, 2231-2249. The Hague: Mouton.

(2019 年 3 月改訂)